



IBARAKI TOYOPET
RACING TEAM

GR86/BRZ Race Rd2 富士スピードウェイ

86/BRZ レース Rd2 早くもポイントをつかんだ中山雄一選手

初の2ヒート大会で8位、7位と連続入賞果たす！



GR86/BRZ Race PROFESSIONAL Series 第2戦
2019年4月20～21日 富士スピードウェイ（静岡県）

晴れ 10周×2ヒート（34台）

「#18」ドライバー：中山 雄一

予選11番手／決勝第1ヒート8位／第2ヒート7位

レースメカニック：高橋 雄大（GR Garage つくば）

池戸 誉（GR Garage つくば）



茨城トヨペットレーシングが中山雄一選手とともに挑む、GR 86/BRZ レース プロフェッショナルシリーズの第2戦が、富士スピードウェイで開催された。今回はシリーズ初めての2ヒート大会としてレースが行われ、最も重要なポイントはタイヤが1セットしか使えないこと。そのため普段のレース以上に、タイヤマネジメントが重視されることとなった。

前回のレースでは初めてのナンバーつき車両でのレースに、違和感を覚えていた中山選手だったが、1戦とはいえ決勝レースを経験したことにより、著しく理解度を高めたようだ。その証拠として、レースウィーク最後の練習の機会となる、金曜日の専有走行で2分4秒704をマークして9番手に。これはトップともコンマ6秒遅れず。

富士スピードウェイが中山選手にとってのホームコースではあるとはいえ、チームの士気がこれまでになく高まったのは言うまでもない。さらにスーパーGT やスーパー耐久といった長丁場での経験は、タイヤマネジメントという意味で大いに活かされることが期待された。

土曜日に行われた予選はコンディションに恵まれ、まさに絶好のアタック日和に。前回は計測開始と同時にコースインした「GR Garage つくば 86R」と中山選手だったが、コンディションの向上を期待し、セッションの折り返しのあたりから走行を開始することとなった。いつものように1周にすべてを賭けたアタックで、中山選手は2分4秒451をマーク。

結果は11番手ながら、トップとの差はコンマ5秒にも満たず。あらためてプロフェッショナルシリーズの層の厚さを感じさせたが、このポジションなら確実に入賞は狙い得る。あとはどこまで順位を上げてくれるか。

「今回は練習から感触が良くて、鈴鹿ほど苦手意識がなく（笑）。前よりクルマに慣れてきたことで順位も上がってきました。ただ、ミスはひとつもなかったんですが、最後の詰めの部分で100%攻めきれなかったあたりは、課題かなとは思っています。とりあえず予選はまあまあでした！」（中山選手）

決勝の第1ヒートは日曜日の11時30分から開始され、「GR Garage つくば 86R」は6列目からのスタートとなった。好発進を果たした中山選手は1コーナーまでに2台をパスして、まずは9番手に浮上。その後もバトルを繰り返していた車両に道を譲るが、結果的にこれが好判断となる。直後の4周目、ダンロップコーナーでその車両がコースアウトして、他の車両を巻き込んでいたからだ。目の前でアクシデントだったものの、中山選手は回避できたことで7番手に浮上する。

5周目にポールポジションを獲得しながら、順位を落としていた車両の先行を許すも、再度ポジションアップを目指し、前を行く車両に何度もプレッシャーをかける中山選手。相手もミスなく走り続けたため、8位でのフィニッシュとはなったが、2レース目にしてポイント獲得に成功した。

第2ヒートのレース開始は16時。心配されたタイヤへの負担だが、中山選手がしっかりマネジメントして走っていたこと、そして第1ヒートよりかなり温度も下がっていたことから、こと「GR Garage つくば 86R」に関しては間

題なさそうだ。第1ヒートの順位がそのまま第2ヒートのグリッドとなるため、8番手からの発進に。

ややホイールスピン気味ながら無難なスタートを切り、ポジションキープで1コーナーに飛び込んでいった中山選手だったが、ダンロップコーナーの進入で左右から囲まれる形となって失速、ひとつ順位を落としてしまう。しかし、そんな状況に陥っても中山選手はいたって冷静に、その後のレースを進めていく。

5周目に先行車両のコースアウトで、まず8番手に浮上。この頃からトップグループとも、遜色のないタイムで周回を重ねるようになっていく。そして、前を行く車両との差はごくわずか。8周目のダンロップコーナーで、きっちり仕掛けて中山選手は7番手に浮上。そのままポジションを保ってチェッカーを受け、2ヒートともにシングルフィニッシュを果たすこととなった。まずは第一步を記したということか。だが、我々が中山選手に寄せる期待は、このレベルではない。さらに高みを望んでくれることを期待したい。

#18 中山雄一選手のコメント



「第1ヒートはまわりとの車間をキープしながら、事故なく安全にゴールしたら8位でした。落ちていて最後まで走れたと思います。第2ヒートはスタートこそ普通でしたが、ダンロップコーナーで佐々木（雅弘）選手と谷口（信輝）選手に両側から挟まれて、何台かに抜かれて。でも、あのぐらいの順位で留められて良かったですし、途中からまわりのクルマのタイヤがタレ始めたので、渋滞から抜け出して前に出ることができました。このあたりのドライバーはみんなクリーンで、きれいに走ってくれましたね。これで今シーズン、ノーポイントは免れました（笑）。どんどんペースも良くなっているので、次のSUGOは出られませんが、第4戦のオートポリスで頑張ります」

中山選手のコメントにもあるとおり、茨城トヨペットレーシングにとって、次の戦いの機会は6月15～16日に行われる、オートポリスでの第4戦となる。ここでも中山選手の豊富な経験が活かされるはずだ。



GR86/BRZ Race

BRIDGESTONE

AMU
RACING PADS

BILLION
OILS

TWS
Racing Wheels

BRIDE

Racing Development
TRD